

# 移民の国 ブラジルに根づいた 日本の食文化

2013 10/25 **金** ~ 12/23 **月 祝**

**入場無料**

海外移住と文化の交流センター 1階特別展示場

開場:午前10時~午後5時 休館日:月曜日(祝日の場合は翌日)

農業大国といわれるブラジルですが、日本移民や日本政府の貢献も見逃せません。中西部に広がる不毛地帯だったセラードを世界有数の穀倉地帯に生まれ変わらせたのは日本移民でした。

また、野菜をあまり食べる習慣のなかったブラジルに、日本移民は多様な野菜を導入。ブラジルの食卓を豊かにしました。さらに、1980年代からはサンパウロなどの大都市で日本食ブームが起り、日本の食材や料理が日系人の枠を超えて広がりました。

日本の食糧基盤を考えればブラジルは最も大切な国の一つです。この展示会をご覧いただき、ブラジルに根付き深い友好の絆を築いてきた日本移民の労苦に思いをはせていただければ幸いです。



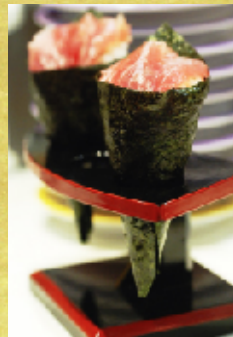
ブラジルの市場に並ぶ日系農家が栽培した野菜の数々



インスタントラーメンもブラジルに浸透している



祭りの屋台からブラジルに広がった焼きそば



「テマケリア」という手巻き寿司専門店まで誕生

**海外移住と文化の交流センター**

〒650-0003 神戸市中央区山本通3丁目19-8

○電車: JR・阪神電車「元町」東口より鯉川筋を北へ徒歩15分  
神戸市営地下鉄「県庁前」より徒歩10分  
○神戸市営バス: 「三宮駅前」または、「元町駅前」から  
①系統に乗車「山本通3丁目」下車、北西へ徒歩3分  
または「山本通4丁目」下車、東へ徒歩3分  
\*お車の方は、当センター北側の有料駐車場をご利用ください。

■主催: 財団法人日伯協会・神戸市  
■協力: ブラジル民族文化研究センター

**NIPPAKU Since 1926**

財団法人 日伯協会 Associação Nipo-Brasileira  
〒650-0003 神戸市中央区山本通3丁目19-8 海外移住と文化の交流センター2階  
電話・ファックス 078-230-2891 E-mail info@nippaku-k.or.jp  
URL http://www.nippaku-k.or.jp



# ブラジルの食文化流入史

ブラジルには移民が持ち込んだ各国の食文化が花開いている

約1万年前

ベーリング海峡を渡ってきたインジオが定住

**インジオ (先住民)**

マンジョカ芋を主食にした  
インジオの食文化があった



1500年

ポルトガル人がブラジルを発見

**ポルトガル人**

植民国家ポルトガルが世界各  
地の食文化をもたらした



1550年

アフリカから黒人奴隷を大量に導入

**黒人奴隷**

黒人女性が農場主のための料理の後、残りものを使って自分たちのために作ったアフロ料理。黒人の郷愁の思いが詰まったアフリカの食文化



1698年

ミナスジェライス州でゴールドラッシュ

**ヨーロッパ移民**

イタリア移民を中心に自分たちの食文化を持ち込んだ



1820年

コーヒー栽培始まる

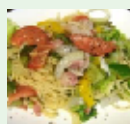
1888年

奴隷制廃止



コーヒー農園の労働力不足に対応して各国移民受入れ

**イタリア移民**



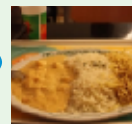
**ドイツ移民**



**アラブ系移民**



**ロシア移民**



**日本移民**

